

## 外科

### 【人員体制】

理事長 1 名 副院長 2 名 部長 2 名 医員 3 名

### 【診療科目】

一般外科 消化器外科 乳腺外科 内視鏡外科  
移植外科

### 【実績と取り組み】

2017 年は外科スタッフの入れ替わりがあり、4 月から、外科部長が前任小林先生に代わって岐阜大学高度先進外科より關野、岐阜大学腫瘍外科より医員として松本が赴任しました。7 月からは廣川先生が名古屋市立大学に帰局されました。岐阜大学高度先進外科・腫瘍外科・名古屋市立大学医局派遣の混成チームで 1 年間を過ごしました。そして、名古屋市立大学からの派遣は 2018 年 3 月をもって終了し、4 月からは岐阜大学のみからの派遣となります。松波総合病院外科のいわば転換期にあたる 2017 年度でしたが、悪性腫瘍手術件数は大腸癌 80 例、胃癌 39 例をはじめとしてほぼ例年通りでした。2017 年度はスムーズな体制移行がまず目標でしたので、これは達成できたと思われれます。今後は新体制のもと、さらに症例数を

のばしていきたいと考えています。消化管悪性腫瘍の手術においては腹腔鏡下手術が大半を占めています。2017 年度食道癌の 4 例に対しては、全例胸部操作は胸腔鏡下、腹部操作は助手補助腹腔鏡下手術を行い、低侵襲化、手術時間の短縮化を図っています。全例手術当日手術室抜管を行い、再挿管はありませんでした。胃癌に対してはガイドラインに準じて、早期（cStage I）を対象に行っています。大腸癌は進行癌も含めて腹腔鏡下手術の適応としており、約 90%が腹腔鏡下手術となっています。肝胆膵領域においては、肝部分切除、低悪性度膵腫瘍に対する体尾部切除を腹腔鏡下手術の適応としております。虫垂炎、鼠径ヘルニアに対してはほぼ全例腹腔鏡下手術を行っており、当科で行われる消化器外科全身麻酔下の手術のうち 2/3 が鏡視下手術となっています。消化器外科医の目標である日本内視鏡外科学会技術認定取得者は現在、關野、栃井の 2 名ですが、さらに当院外科から取得者を増やしていきたいと考えております。また今年度は消化器外科におけるロボット手術にも本格的に携わる予定です。

〔文責：關野考史〕

## 呼吸器外科

### 診療内容

呼吸器科領域全般に関して手術を行います。

#### <肺がん>

治療前の検査として胸腹部 CT、PET、脳 MRI、必要に応じて気管支鏡（超音波内視鏡）検査などを行ないます。呼吸器内科医師、放射線科医師とのカンファレンスを定期的に行い治療方針を決定します。

通常の肺がんの手術の場合では、手術は側胸部に 6-10cm の皮膚切開を 1 箇所、2cm の皮膚切開を 2 箇所に加えて胸腔鏡下に行います。

#### <自然気胸>

手術は側胸部に 1-2cm の皮膚切開を 1-2 箇所、わきの下に 2-4cm の皮膚切開を 1 箇所加え、胸腔鏡下に原因となる嚢胞を切除あるいは縫縮します。

### 【2017 年 疾患別開胸手術症例数】

疾患		
肺がん	原発性肺がん	54
	転移性肺がん	6
縦隔腫瘍		3
気胸		11
膿胸		0
手掌多汗症		2
胸壁腫瘍		0
その他		16
計		92

### 【2017 年 主な疾患の術後在院日数】

疾患	中央値（平均値）
原発性肺がん（切除症例）	5(6)
転移性肺がん（切除症例）	5(5)
気胸	4(9)

〔文責：春日井敏夫〕

## 脳神経外科

脳神経外科は、2017年10月1日から私以外のメンバーが一新され、2007年卒業の澤田重信先生と2012年卒業の大鷲悦子先生が岐阜大学医局人事で赴任してくれたのは、大変喜ばしい出来事でした。2人とも手術に対するやる気があり、今後一人前の脳外科医になろうとする気概を感じる先生方です。まだ、彼らが赴任してから半年しか経過していませんので、現時点では何ともいえませんが2018年の総手術件数の増加を今から期待しています。

さて、2017年の年間総手術件数は血管内手術を含めて合計180例という結果でした（内訳として、手術室での手術件数134例＋カテ室での脳血管内手術件数46例でした）。この数字を分析すると、総手術件数自体は昨年の183例から減少したので大変残念ですが、その内訳として手術室での手術件数で比較してみますと、2016年度が115例でしたので直達手術が19例増加した結果には満足しています。脳神経外科という科の特徴から救急車からの脳卒中患者搬入数をいかに増加させるかが極めて重要ですので、24時間365日通話可能な脳卒中ホットラインを今後も活用していきたいと思っています。

しかしその一方で、重要なのは件数だけではなく提供する医療の質ですので、これまで通り一例一例を大切にす姿勢で臨床結果にこだわって治療し、また困難な疾患にも逃げずに立ち向かっていく姿勢を保持しながら、最低200件以上の手術件数を維持していきたいと思っています。

### < 2017年度脳外科手術内訳 >

脳神経外科的手術総数 180 例

#### I. 脳腫瘍

脳腫瘍摘出術 6 例

脳腫瘍その他 1 例

#### II. 脳血管障害

破裂脳動脈瘤クリッピング術 7 例

未破裂脳動脈瘤クリッピング術 13 例

頸動脈内膜剝離術 5 例

開頭血腫除去術 16 例

脳血管障害その他 19 例

#### III. 外傷

急性硬膜外血腫 1 例

急性硬膜下血腫 8 例

慢性硬膜下血腫 35 例

IV. 奇形：その他 1 例

#### V. 水頭症

脳室シャント術 17 例

#### VI. 機能的手術

脳神経減圧術 5 例

#### VII. 血管内手術

血管内手術総数 46 例

破裂動脈瘤塞栓術 3 例

未破裂脳動脈瘤塞栓術 3 例

閉塞性脳血管障害 31 例

(ステント使用) (26例)

血管内手術：その他 9 例

[文責：澤田元史]

## 整形外科・関節外科センター・脊椎外科センター

### 【人員体制】

福田雅（整形外科部長、関節外科センター長）、喜久生健太（整形外科副部長）、日置暁（脊椎外科部長、脊椎外科センター長）、田中薫（整形外科医長）、山口良大（整形外科医長）の常勤5名

### 【診療内容】

関節外科、四肢外傷、スポーツ障害・外傷、脊椎外科

### 【取り組み、実績】

2017年の総手術件数は630件（2017年より49件増）でした。

脊椎手術は137件で34件の増加ですが、そのうちBKP（Balloon Kyphoplasty）が22件から43件と21件の増加をみえています。偽関節化した脊椎圧迫骨折に対して低侵襲で高い除痛効果が望めるBKPは超高齢社会の現状ではますます需要が高まっていると感じています。

人工関節は33件で昨年より9件増加、関節鏡視下手術は48件と13件の増加でした。適応の変化により膝半月板切除術が減少していたものが、半月板縫合術の拡大によって増加してきている印象です。

相変わらず外傷、特に高齢者の大腿骨近位部骨折が多いのは2次救急病院としては当然のことではありますが、年々手術対象の年齢層も上がり90歳以上の手術患者（最高齢100歳）が当たり前になってきました。認知症や全身合併症のコントロールに他科のご協力をいただきながら、可能な限り安全に、早期の在宅復帰を目指すことを心がけて努力していきたいと考えています。

### 【手術件数】

脊椎手術	137件
頸椎手術	21件
腰椎手術	42件
胸椎・胸腰椎など	74件
人工股関節	21件
人工膝関節	11件
人工肩関節	1件
関節鏡手術	48件
膝関節鏡	35件
肩関節鏡	7件
肘関節鏡	1件
足関節鏡	1件
その他（股関節、手関節など）	4件

〔文責：福田 雅〕

## 形成外科

### 【人員体制】

部長 1 名、医長 1 名

### 【診療内容】

形成外科全般の診療を行っているが、特に顔面外傷や切断指再接着をはじめとした手指の外傷例が多い。眼瞼下垂症手術は加齢性の症例に加えて

先天性眼瞼下垂の治療も行っている。

乳房再建では乳腺外科の協力もあり、乳房切除術と同時に再建を行う一次一期再建に力を入れている。乳がんにかかっていても乳房を失う時期がないため、患者さんには概ね好評である。

[文責：北澤 健]

### 松波総合病院 2017

外傷	上肢・下肢の外傷	124
	外傷後の組織欠損（2次再建）	2
	顔面骨折	31
	顔面軟部組織損傷	33
	頭部・頸部・体幹の外傷	6
	熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷	2
	小計	198
先天異常	頸部の先天異常	0
	四肢の先天異常	1
	唇裂・口蓋裂	0
	体幹（その他）の先天異常	2
	頭蓋・顎・顔面の先天異常	34
	小計	37
腫瘍	悪性腫瘍	20
	腫瘍の続発症	0
	腫瘍切除後の組織欠損（一次・二次再建）	17
	良性腫瘍	175
	小計	212
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	25
	小計	25
難治性潰瘍	その他の潰瘍（下腿・足潰瘍を含む）	17
	褥瘡	2
	小計	19
炎症・変性疾患	炎症・変性疾患	55
	小計	55
美容	手術	1
	処置（非手術、レーザーを含む）	40
	小計	41
その他	その他（眼瞼下垂、腋臭症）	342
	小計	342
合計		929
レーザー治療		57